

交通輸送技術検討会（第4回）

議事要旨

日時：平成31年2月6日（水） 15:00~16:30

会場：東京都庁第一本庁舎 33階 A会議室

1. 開会

2. 議事に関する主な意見等

(1) 交通輸送技術検討会設置要綱の改正について

意見なし

(2) 東京2020大会における交通マネジメントの検討状況について

- ・これまで社会学的なTDMとTSMを推し進めるということでやってきた。今回は追加対策が必要という中で、経済学的なTDMとして料金施策やナンバープレート規制、HOVレーンが候補に挙がっているという状況。追加対策については、正当性や有効性、技術的実現性、社会的受容性の観点から議論が必要である。
- ・追加対策に対する社会的受容性を高めることが重要である。首都高における188%という大会時の交通が混雑する予測に対して、数字の伝え方が極めて重要である。一般道への影響も含めて、丁寧に説明していくことが必要である。
- ・追加対策とその手法を考える際には、技術的にどこまで対応が可能かについても考慮にいれなくてはならない。
- ・ナンバープレート規制は、偶数・奇数で分類すると、半分まで減らしてしまうことになるが、そこまで減らす必要はない。
- ・HOVレーンは、乗車人数が多いことがすなわち首都高を利用する正当性にはつながらない。
- ・経済学的なTDM、社会学的なTDM、TSMについては、全部が一体となったバランスのとれた施策になっているかチェックが必要である。
- ・資料3で都市活動の安定のために物流車両には基本的に適用しないとしているが、物流にはもう少し強く社会学的なTDMへの協力を呼び掛けるといったやり方もあるのではないか。
- ・物流に関しては、地区やゾーンの視点以外に業種・業態といった議論も重要である。なお、建設業や製造業、卸小売業といった荷主側へのアプローチも検討してほしい。
- ・全体での削減目標だけでなく、限定的な路線や時間がセットになったアピール（情報提供）が必要である。今後は緻密な予測と表現をセットで考えてほしい。

- ・大会期間中は、観光目的等でマイカーやレンタカーも増えるのではないかと。都内には膨大な駐車場もある。都内の駐車場の対策についても議論が必要ではないかと。また、一般道の競技会場に向かう数百mは、何らかの強いTSMが局地的には必要になるのではないかと。

(3) 交通輸送技術検討会に係わる今後のスケジュール(案)

意見なし

(4) その他

意見なし

3. 閉 会